

# 未来に向かって伸びる鶴嶺の子

## 鶴小だより 1月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校  
校長 日高 大司郎  
令和6年1月10日発行



### 「学力・学習状況調査」の結果について

令和5年度の学力・学習状況調査は、令和5年4月18日（火）に行われました。今回は、その結果についてお話ししたいと思います。

まず、「学力・学習状況調査」とは、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てるといふ、大きく二つの目的でなされています。

調査の項目は、教科に関する調査として、例年は、「国語」と「算数」の2教科について、年度によっては、理科も加えて行われます。そして、質問紙調査として、「基本的な生活習慣」、「自己有用感」、「学習習慣」等について子どもたちに問うています。

結果は、国語・算数ともに、全国平均、神奈川平均とほぼ同値となりました。それでは、教科毎にみていきましょう。

#### 《教科に関する調査より》

国語では、「読むこと」（思考力・判断力・表現力等）の内容にあたる〈文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけることができる〉〈文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる〉の設問について、高い正答率となりました。

その一方、「書くこと」（思考力・判断力・表現力等）の内容にあたる〈図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する〉については、課題が見られました。

→正答率は全国平均、県平均と変わらない値ですが、他の指導要領の内容と比べると低くなっています。ひとつは、低中高の学年毎に、題材の設定、構成、考えの形成、推敲というそれぞれ項目で押さえるべき内容を十分理解させること、もうひとつは日常的に書く機会を保障することを行っていきます。

また、「言葉の特徴や使い方」（知識・技能）の内容である〈漢字を文の中で正しく使うこと〉では、無回答の率が高く出ました。

→日常的に使うこと、習熟のための練習の時間を家庭学習も含め取っていくことなどを考えていきます。

算数では、「図形」の領域（知識及び技能）の内容にあたる〈台形の意味や性質についての理解〉や「数と計算」の領域（知識及び技能）の内容にあたる〈一の位が0のふた桁のかけ算〉の問いで、力

を発揮することができました。

しかし、「データの活用」の領域（思考力・判断力・表現力）で〈示されたグラフと複数のグラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する〉問いや「変化と関係」の領域（思考力・判断力・表現力）で〈比例の関係を用了、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する〉問題では、低い正答率となりました。

→日常の授業の中で、児童が説明する場面をより一層増やし、如何にして質的に向上させるかを職員一同考えていきます。

#### 《質問紙調査より》

まず、生活習慣等については、「朝食を毎日食べますか」の問いに、昨年度同様90%近くの児童が食べていると回答しました。保護者の皆様の取り組みに改めて感謝いたします。一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いでは、26%の児童がしていると答えています。これは昨年度よりも、10ポイント近く低い数値です。保護者の皆さんと子どもたちとで、本気で考えていただく必要がありそうです。

次に、子どもたちの自己有用感についての質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、約42%の児童があてはまると回答し、約39%は、どちらかといえばあてはまるとしていました。「あてはまる」の回答は昨年度よりも4ポイント向上しています。すべての子どもが「あてはまる」になるよう、学校・家庭で、活動の過程を認め、価値付けをしていきたいと感じました。

最後に、学校の楽しさと、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する質問です。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、約43%の児童があてはまると答えています。肯定的回答は80%を超えますが、この値を低い数値だとまずとらえたいと思います。そして、そこをよりよくするのは「授業改善」への職員の取り組み如何なのだと位置づけています。

「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の問いでは、「あてはまる」の回答が、約29%でした。まさに、主体的・対話的な授業を端的に表しているような問いです。肯定的に回答している児童は、約74%ではありますが、自分で学ぶ意義と友だちとの協働の学びの楽しさを十分に感じさせ、子どもたちに「楽しい」と感じてもらえるよう、授業づくりしてまいります。